学生・保護者
参加者募集

「ジョブ・ナビIZUMO」フェア

～市内企業合同ガイダンス＆保護者向け就活セミナー～

学生・保護者・市内企業約70社が一堂に会する業界研究イベントを開催します。
出雲の企業や働く人との出会いは、就活や将来のキャリア選択の参考になりますので、ぜひご参加ください！

日時 12月28日(月)13:10～16:20　**会場** 朱鷺(とき)会館(西新町2丁目2456-4)

その他 参加費無料、服装自由、参加者プレゼントあり！

市内企業合同ガイダンス　学生向け

出雲の企業に出会う1日にしませんか。

時間 13:10～16:20

対象 大学、短大、専門、高専等に在籍する学生、高校生、保護者、一般求職者

内容
- 企業PRタイム
- 企業ブースでの会社情報説明
- 職業、キャリア相談コーナー

▲ジョブナビIZUMO ホームページ



保護者向け就活セミナー　保護者向け

子どもの就活について一緒に考えてみませんか。

時間 14:00～16:20

対象 大学、短大、専門、高専、高校等に在籍する学生の保護者

内容
- 講演「子どもの就活と親の役割」
  講師／しまねおしごとラボ　村上 亮介氏
- パネルディスカッション(講師×市内企業の若手社員)
- 講師による保護者向け相談コーナー

▲ジョブナビIZUMO ホームページ

ジョブ・ナビＩＺＵＭＯ　検索　詳細は「ジョブ・ナビIZUMO」でご確認ください。

おたずね／産業政策課(出雲地区雇用推進協議会事務局) TEL 24－7620 メール koyou@city.izumo.shimane.jp

---

OH!

地産地消コーナー　まいがな出雲！

Vol.66 今月の食材「ヤマトシジミ」

地元でとれる食材のおいしさを再発見してもらい、積極的に消費してもらいたい！地元食材や生産者に親しみをもってもらい、地域への愛着を深めてもらいたい！との思いで、いろいろな情報をお届けします。

今月の担当　水産振興課　TEL 21－6795

今回は、「ヤマトシジミ」をご紹介します。

ヤマトシジミといえば島根県の名産品で、漁獲量は全国1位、約4割を占めます。出雲市内では、宍道湖、神西湖、神戸川といった汽水域に生息し、旬は産卵のために身が肥えた7月前後の「土用シジミ」と1～3月の冬季に漁獲される「寒シジミ」です。



水産振興課では、出雲で獲れる魚介類や漁業に興味を持ち、消費拡大や水産振興に繋げることを目的に、毎年、漁業者の協力を得て「シジミ漁体験会」を開催し、先般も2日間開催しました。船上からジョレンを使って、大量のシジミがとれ、参加者は大満足。この豊かな自然は、地域住民や漁師さんの日々の活動により守られていることも忘れてはいけません。

そんな豊かな自然の恵みヤマトシジミですが、今回、とてもおいしく、簡単なレシピを紹介いたします。

しじみの酒蒸し



【材　料】(2人分)

ヤマトシジミ …… 250ｇ
酒 …… 大さじ2
薄口しょうゆ …… 小さじ2
刻みネギ …… 適量

【作り方】

❶砂抜きしたシジミをよく洗います。
❷フライパンにシジミと酒を入れてフタをし、中火で2～3分蒸し煮します。
❸シジミの口が空いたら、薄口しょうゆを入れ軽く混ぜます。
❹刻みネギを散らせば完成です。

出雲ならではの暮らしの魅力、見てみませんか？
シティプロモーションサイト公開中！

毎日の暮らしの中にある、出雲ならではの魅力。
住んでいるからこそ気づきにくい魅力も、少し目線を変えると、新しい発見があるかもしれません。

シティプロモーションサイトでは、出雲で暮らす人・働く人へのインタビューをはじめ、暮らしや仕事、地域とのつながりなど、さまざまな角度から出雲の魅力を紹介していきます。

「出雲って、こんなにいいところなんだ」「こんな暮らし方ができるんだ」
そんな気づきを、ぜひ見つけてください。



Instagramでも出雲の暮らしの魅力を発信中！

シティプロモーションサイト

市では、こうした情報発信を通じて、市民の皆さんの「ふるさと出雲」への愛着や誇りを育むとともに、若者の人口流出の抑制やＵＩＪターンの促進につなげ、地域の活性化を図ります。

おたずね／広報課　TEL ２１－８５７８

だんだんサミット
中海･宍道湖･大山圏域市長会

中海･宍道湖･大山圏域市長会 通信

中海・宍道湖・大山圏域市長会は、中海と宍道湖沿岸の5市（出雲市、松江市、安来市、米子市、境港市）で構成し、圏域が一体となってさまざまな事業を展開しています。

近代の歴史からみた５市のつながり ―近代化の旗手・鉄道から―

明治時代以降、私たちの暮らしを支え、社会を発展させた原動力のひとつが、交通インフラとしての鉄道です。汽笛一声、新橋―横浜間に陸蒸気（おかじょうき）がお目見えしてから 30 年後の明治 35 年、ついに山陰地方初の鉄道が境―御来屋（みくりや）間に開通しました。やがて鉄道のまち・米子を起点に線路は東西に延伸し、明治 41 年４月には、米子―安来間、11 月には安来―松江間が開業します。そして、明治 45 年３月には山陰本線京都―出雲今市間が全通しました。

それまで船舶による水上交通が主役だったモノとヒトの大量輸送が、鉄道により安定的に行えるようになったことは、今日までの５市の発展を強力に支えてきました。まさに、鉄道は近代化の旗手であったといえるでしょう。この鉄道は、やがて鉄道省から日本国有鉄道さらにＪＲに引き継がれ、今日でもモータリゼーションの発展とともに圏域の交通の基盤として親しまれています。





おたずね／政策企画課　TEL ２１－６６１２　FAX ２１－６７５２